

兒童心理學文獻抄

立教大學心理學研究室

牛 島 義 友

園兒を中心にした兒童心理學の最近の業績を紹介する様にこの倉橋先生の御依頼に基き、今後及ばず乍ら邦語の文獻を中心にし、必要に応じて外國の研究を取まぜて抄録する事にする。研究の新しい古いによつて必ずしも其價値を左右するものではない故に、典據的見なされるものは古い研究をも引合に出す事にした。又文獻を斷片的に羅列したのでは讀者の理解も困難だし興味も少い事と思ふ故に、一研究を中心にし、それと相關聯せる諸研究の結果を以て補足して行き、唯一つの研究結果から性急に結論する危険をさげやうと思ふ。又問題の配列も組織的にして先づ兒童の精神活動を規定する條件たる遺傳・環境の問題からはじめ、幼兒の精神發達に及び、更に特殊な問題の子供まで取り扱つて行きたいと思ふ。

この欄が幾分でも研究に實際の橋渡しとなる事が出来たらと思ひつゝ筆を進める。

一 遺傳

遺傳といふ言葉程教育者に失望的なものは少からう。先天的に痴者なるものは、如何に教育しても常人以上に達する事は出来ないこの鐵則は教育者の勞を認めない宿命論の様である。遺傳か、教育かの問題は生物學者と教育家との間の久しい論争主題であつたが、眞理は其中間にあると考へるのが、眞理でもあり實際的である。

シユテルンは人間生活は遺傳(先天説)或は環境(經驗説)の唯一方のみによつて規定されるものではなく、其兩者の複合的な作用によつて規定される、ミして複合説を説いて居る。又實際教育家の立場ミしても遺傳素質を無視して低能な兒童に過重な負擔を負はせても決して子供を幸福にするものではなく、寧ろ其分に應じて萬能な事を教へ、獨立の生活が出来様に指導してやるのが正しい事は申すまでもなからう。

又遺傳の事實は教育を否定するものではなく教育を最も效果的に導く指標である。又遺傳によつて、人間生活が規定されて居るからこそ、人間教育は唯單に一個人の教養の問題に止まらず、更に親の教養、社會の淨化運動にまで發展して來り教育家の使命を益々大ならしめるものである。

精神的特質即ち智能、情意的諸性質或は特殊な音樂・繪畫等の天分の遺傳を研究する方法には二通りあり、一つは家系的な研究で一つの系統の家庭を數代に遡つて見て其特質(負因)が現れて居る状態をしらべる方法であり、他は統計的に相關係數に基づく研究である。

先づ後者の最近の一研究たるカフターの研究を紹介する。

カフター言語並に數的能力に就いての家族の類似 H. D. Carter; Family resemblances in verbal and numerical abilities Gen. Psychol. Monog. XII. 1932 此研究は智能の中でも言語に關した能力ミ數學に關した能力が同一家族の者の中で如何に類似してをるかを調べたものである。

調べる方法は一家族内の兩親子供に算術検査ミ語彙検査を課して其成績を基にして研究する。此研究に進んで被檢者ミなつてくれた人は合計百八家族で、此家族には皆兩親が揃ひ、一名以上の十二歳以上の子供が居る。故に結局親子の類似關係ミして二百十六組、兄弟同志の關係ミして二百三十組のものが材料ミなつて居る。

親子並びに同胞間の類似関係を定めるのは、相関係数に基づいてなされる。相関係数は二つの物の間の関係の程度を示す値で例へば算術で一番の親の子供はやはり一番であり、二番の親の子は二番、三番の親の子は三番等の如く、完全に順序が一致した様な場合には相関係数はプラス一となり、親子の順序が全然無関係なる時は零となり、反対に親が一番で子供がビリであるといふ様な反対の場合には、マイナス一に近くなる様な値である。即ちプラス一に近ければ近い程、類似度が高く、零に近い程無関係である事を示す。係数が一になる様な事は實際にはなく〇・三位から上なら相當に關係があるを云へる。先づ親子の關係を見るに次の如くなる。

	語彙	算術
父と息	.31	.1
父と娘	.26	.04
母と息	.07	.12
母と娘	.34	.34
平均	.22	.195

即ち語彙の平均は・二二で餘り高くない、算術の場合は更に低い。故に親子のこの類似性は餘り高いとは云へない。次に同胞の類似關係を見るに左上の如く、平均・三三五及び・二二で親子の場合より相關々係が深い。

同胞同志きは男女の區別なりにすべての同胞間の相関係数であり、次のものはそれを分析的に見たものである。

	語彙	算術
同胞同志	.34	.21
兄弟と姉妹	.31	.17
兄と弟	.43	.21
姉と妹	.32	.23
平均	.35	.21

之と同じ様な研究は從來非常に多くなされて居り、得られた結果も少しづつ異なる。而し多くはカタターの研究結果よりも一層高い相關々係を示して居る。今從來の智能遺傳に關した諸研究を一括して表示して參考に供する。この表には、年代、研究者、並びに相関係数を示す。先づ親子の智

能相關は・二七乃至・四九に及んで居る。バンカーが比較のため全然血縁の無關係な八十三組の者をこつてその相関係数を出した所マイナス・一一七といふ風になり殆んき全然類似がない。之に對して血縁關係のある場合には非常に高い類

似を示してゐる。パークスの養子の場合も同様で養父と養子の間の相関は實父子に較べるに問題にならぬ程低い。

次に、同胞間の智能類似度を見るに・三三乃至・六九に及び、親子の場合より一層高い類似度を示してゐる。かゝる同胞間の類似性はその養育され、教育される環境が同様であるといふ事も關係はするが、主な原因は先天的な遺傳關係によるものである。ピアソンは遺傳の影響は・五一に對して、環境の影響は・〇三位であらうと述べて居る。環境の影響がかくま
で少ないとは考へられないが併し遺傳の影響が非常に大きい事は否定出來ない。

親子智能の遺傳

年代	研究者	相關係數
1936	ウ ッ ズ	.30
1907	シ ュ ス タ ー エ ル ダ ー ト	.312
”	” ア ソ ン	.49
1917	コ ッ プ	.32
1928	ウ キ ロ ビ ー	.35
”	” ジ ョ ー ンズ	.508
”	” フ リ ー マ ン	.35
”	” パ ン カ ー	.49
”	(同 無關係者	-.117)
”	” パ ー ク ス	.47
”	(同 養子の場合	.13)
”	村 瀬 雄 平	.478

同胞間の智能類似度

年代	研究者	相關係數
1903	ア ー ル	.51
”	” ビ ア ソ ン	.52
1907	シ ュ ス タ ー エ ル ダ ー ト	.405
1915	” ス タ ー チ	.52
”	” テ キ ス タ ー	.69
1917	” ス タ ー チ	.42
1918	” ビ ン ト ナ ー	.39
1919	” ゴ ル ド ン	.61
”	” ド リ ン ク ウ ォ ー タ ー	.45
1924	” ハ ー ト	.44
”	” レ ン シ ュ	.54
1925	” ヒ ル ト レ ッ ト	.68
1926	” グ リ フ ィ ッ ツ	.61
1928	” ソ ー ン ダ イ ク	.60
”	” ウ イ ロ ビ ー	.42
”	” ジ ョ ンズ	.49
”	” パ ン カ ー	.49

尙遺傳に關係しては非常に多くの問題がある。例へば父の影響と母の影響に關してゴルトンは、父系の影響は詩人、藝術家に多く現はれて居り、母系の影響は宗教家に多く現はれて居る。ハイマンズは寛容の徳は母の影響の方が大である
と云つて居る。又父の性質は娘よりも息子に、母の性質は息子よりも娘の方に多く傳はる(同性遺傳)と云ふ事をペー
テル又は智能に關係して、クラウゼは繪畫素質に關係してのべて居る。

又祖先の影響については、ゴルトンの祖先遺傳の法則がある。即ち一個人は父母から二分の一の性質を受け、祖父母から四分の一、曾祖父母から八分の一等々の性質を受けつぐといふ事を天才の家系的研究から見出して居る。

家系的研究では、低能者、犯罪人、精神病者、の先祖を尋ねて行つて同じ様な缺陷者をさがし出して居る。この中ゴッダードの研究したカリカック家は有名である。ゴッダードの白痴院に入つて来た一少年の先祖にマルティン・カリカックミ云ふ人が居た。彼は南北戦争の折に兵士として出征しある低能の女と關係して子供を生んだ。その子孫が一九一二年迄に五代四百八十名あるが、その中に低能者百四十三、私生兒三十六、廢業婦、三十三、其他悖德者が多數あるが一方このマルティンが凱旋後正式に結婚した普通の智能の妻からは四百九十六名の子孫が出て居るが、只五名の大酒家、精神錯亂者を除く外は皆立派な人になつて居る。

又ダグデールの研究したジューク家の先祖は一七二〇年に生れ、その五人の娘から問題の子孫が出て居る。五代に互り七百名の子孫があるが少數の眞面目な労働者を除いては、大體に於て、犯罪者、賣笑婦、浮浪者、貧窮者のみの一大集群である。即ち常習性乞食が三一〇人、自己の招いた悪性の病氣によつて死んだ者四四〇人、賣笑婦は女の半數、犯罪者一三〇人、その他。又一八〇名の者は政府の救助補助金を受けて居たがその額は合計百二十五萬弗以上に上る云はれて居る。

以上、雜然と遺傳に關係した諸事實をのべたが、兎に角人間の精神生活が遺傳に依つて根本的に規定されてをる事を認め、之に應じて諸種の教育方策を講じなければならぬ。

幼児の保育に携はれる方々としては問題の子供が在る場合には先づ其遺傳關係を調べる事によつて其原因が先天的なものか後天的なものかを明らかにして善處する必要がある。又優秀な負因は早期に發見してそれを助長し完成させてやる事は教育者の最も樂しき務である。